

2026年2月6日

## 都市で身近に自然と触れ合える場づくりと 参加を促す仕組みづくり

株式会社竹中工務店 経営企画室 サステナビリティ推進部  
三輪 隆



# 竹中工務店の環境への取り組み経緯

## 半世紀にわたる環境への取り組みの源流としての「設計に緑を」

経営理念：最良の作品を世に遺し、社会に貢献する

コーポレートメッセージ：想いをかたちに 未来へつなぐ



1962 地球環境に関する世界の動き  
 1962 レイチェル・カーソン「沈黙の春」  
 1972 ローマクラブ「成長の限界」  
 1987 「持続可能な開発」提言  
 1992 地球サミット（リオ）  
 1997 COP3 地球温暖化防止条約 京都議定書採択  
 2005 京都議定書発効  
 2010 COP10 生物多様性条約 名古屋議定書採択  
 2011.3.11 東日本大震災  
 2015 COP21 パリ協定採択 SDGs 台座  
 2020 COVID-19 2050年 GHG 実質ゼロ 首相表明 衆参 気候非常事態宣言

1899 創立

1953 われらのモットー \*1  
 無駄なく 親切に 最良の工事  
 \*1 1955年に「信用第一に よりよい仕事を親切に 無駄をなくして安全に」というフレーズに改定した

1971 **設計に緑を**  
 「緑」を、自然・故郷・季節・人情などの言葉の持つメンタルな領域を含めて、豊かな環境の創造を意味する言葉としてとらえ、実践

1992 地球環境憲章  
 環境にやさしい建築技術の展開と環境と調和する空間創造に努め 社会の持続的発展に貢献する

1998 ISO14001 認証取得

2009 環境方針  
 環境と調和する空間創造に努め 社会の持続的発展に貢献する  
 活動指針  
 1. 脱炭素社会、資源循環社会、自然共生社会  
 2. 環境リスク対策  
 3. 環境マネジメント  
 4. 教育による環境意識の向上  
 5. 環境コミュニケーション  
 6. 社会的な環境活動

2010 環境メッセージ  
 人と自然をつなぐ  
 2050年に向けた環境メッセージ・コンセプトを決定、環境コンセプトブック発行

2012 生物多様性活動指針  
 1. 認識と共有  
 2. 環境マネジメント  
 3. 研究開発  
 4. 建設活動  
 5. 自社施設  
 6. 教育・啓発  
 7. 連携・協働

2020 SDGs BOOKLET  
 SDGs 達成に向けた 当社の取組み

2004 サステナブル・ワークス  
 お客様とともに環境と調和する空間創造を行うことをめざした当社の建築への取組み

2013 都市木造プロジェクトの実現

2016 Net ZEB プロジェクトの実現

2018 4つの視点と16の指標  
 書籍「竹中の環境建築」の中で、建築の内部空間から都市へと広がる4つの視点を定め、環境建築を実現するための指標を整理

1996 施工段階のCO<sub>2</sub>発生抑制の取組み  
 省燃費運転、バイオ燃料

1998 資源循環への取組み  
 リデュース・リユース・リサイクル活動

2001 グリーン調達推進

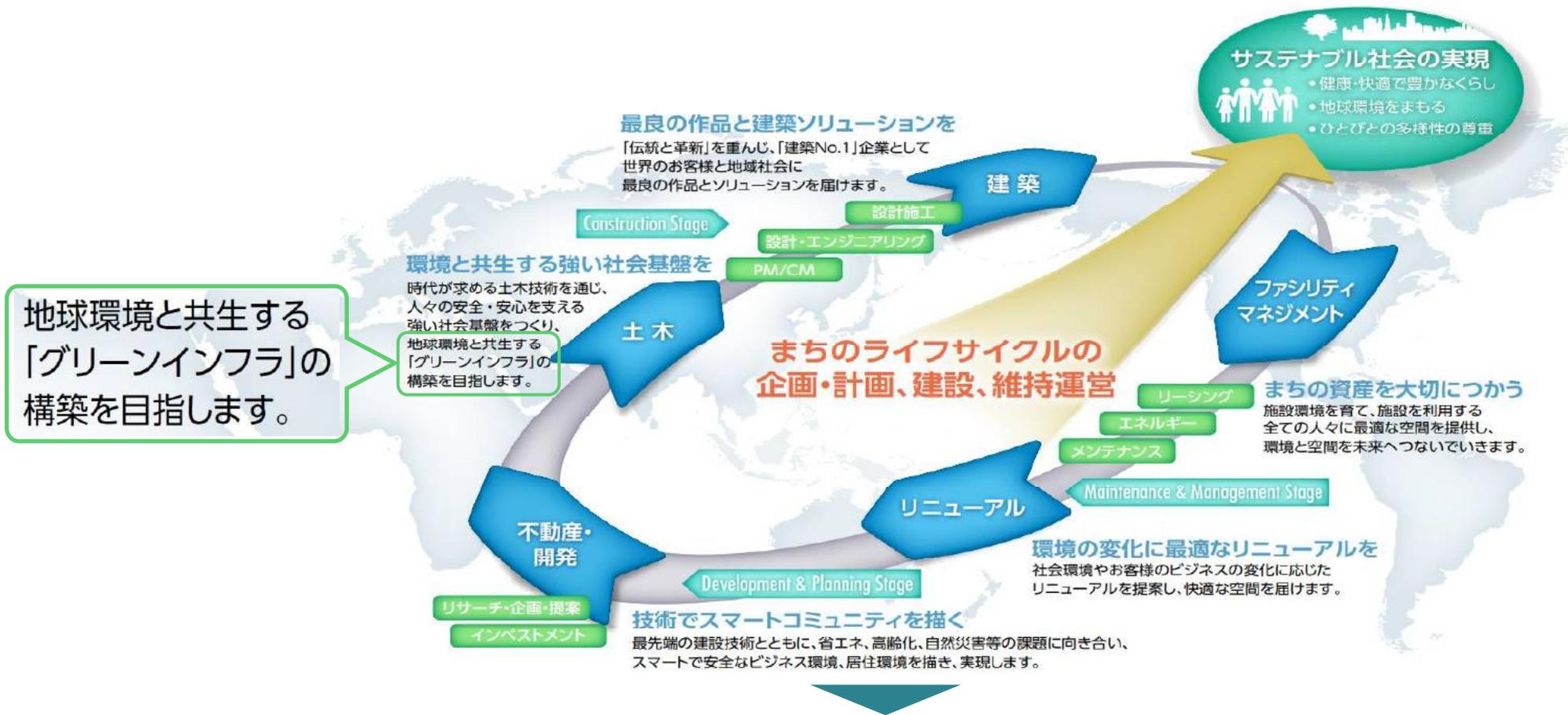
2012 環境にやさしい解体工法  
 竹中ハットダウン工法、竹中グリップダウン工法

2014 廃棄物の有効活用  
 ECMセメント、モルトール

..... 自社オフィスにおける 省資源・省エネルギー活動 .....

# まちづくりを成長戦略の基軸に(2014年) 敷地単位から地域スケールの豊かさへ

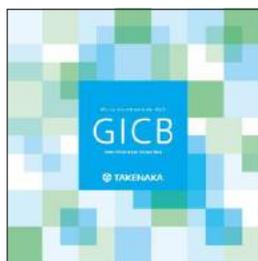
## まちづくり総合エンジニアリングを支える専門領域として自然を活かした課題解決を位置づけ



生物多様性を万人が自分事化できるまちの価値に落とし込み ⇒ 生物多様性の主流化



Function



- 竹中は持続可能な都市のデザインに責任がある
- 2020年にグリーンインフラコンセプトブックを発行
- 自然を賢く活かした課題解決NbSへの決意を表明

# 竹中が考えるグリーンインフラとは

- ① 自然の**多様な機能**を多目的に活かしたインフラや土地利用
- ② 自然を活かした創造的な課題解決や**価値創造**のアプローチ
- ③ 生物多様性を**まちの価値**に落とし込む手段



## 昆明・モンリオール生物多様性枠組の構造

**2050年ビジョン**  
**自然と共生する世界**

**2050年ゴール**

**A**

- 生態系の健全性、連結性、レジリエンスの維持・強化・回復。自然生態系の面積増加
- 人による絶滅の阻止、絶滅率とリスクの削減。在来野生種の個体数の増加
- 遺伝的多様性の維持、適応能力の保護

**B** 生物多様性が持続可能に利用され、自然の寄与（NCP）が評価・維持・強化

**C** 遺伝資源、デジタル配列情報（DSI）、遺伝資源に関連する伝統的知識の利用による利益の公正かつ衡平な配分と2050年までの大幅な増加により、生物多様性保全と持続可能な利用に貢献

**D** 年間7,000億ドルの生物多様性の資金ギャップを徐々に縮小し、枠組実施のための十分な実施手段を確保

**2030年ミッション**  
**自然を回復軌道に乗せるために生物多様性の損失を止め反転させるための緊急の行動をとる**

**2030年ターゲット**

**(1) 生物多様性への脅威を減らす**

- すべての地域を参加型・統合的で生物多様性に配慮した空間計画下及び/又は効果的な管理プロセス下に置く
- 劣化した生態系の30%の地域を効果的な回復下に置く
- 陸と海のそれぞれ少なくとも30%を保護地域及びOECMにより保全（30 by 30目標）
- 絶滅リスクを大幅に減らすために緊急の管理行動を確保、人間と野生生物との軋轢を最小化
- 乱獲を防止するなど、野生種の利用等が持続的かつ安全、合法的なものにする
- 侵略的外来種の導入率及び定着率を50%以上削減
- 環境中に流出する過剰な栄養素の半減、農業及び有害性の高い化学物質による全体的なリスクの半減、プラスチック汚染の防止・削減
- 自然を活用した解決策/生態系を活用したアプローチ等を通じた、気候変動による生物多様性への影響の最小化

**(2) 人々のニーズを満たす**

- 野生種の管理と利用を持続可能なものとし、人々に社会的、経済的、環境的な恩恵をもたらす
- 農業、養殖業、漁業、林業地域が持続的に管理され、生産システムの強靱性及び長期的な効率性と生産性、並びに食料安全保障に貢献
- 自然を活用した解決策/生態系を活用したアプローチを通じた、自然の寄与(NCP)の回復、維持、強化
- 都市部における緑地・親水空間の面積、質、アクセス、便益の増加、及び生物多様性を配慮した都市計画の確保
- 遺伝資源及びデジタル配列情報(DSI)に係る利益配分の措置をとり、アクセスと利益配分(ABS)に関する文書に従った利益配分の大幅な増加を促進

**(3) ツールと解決策**

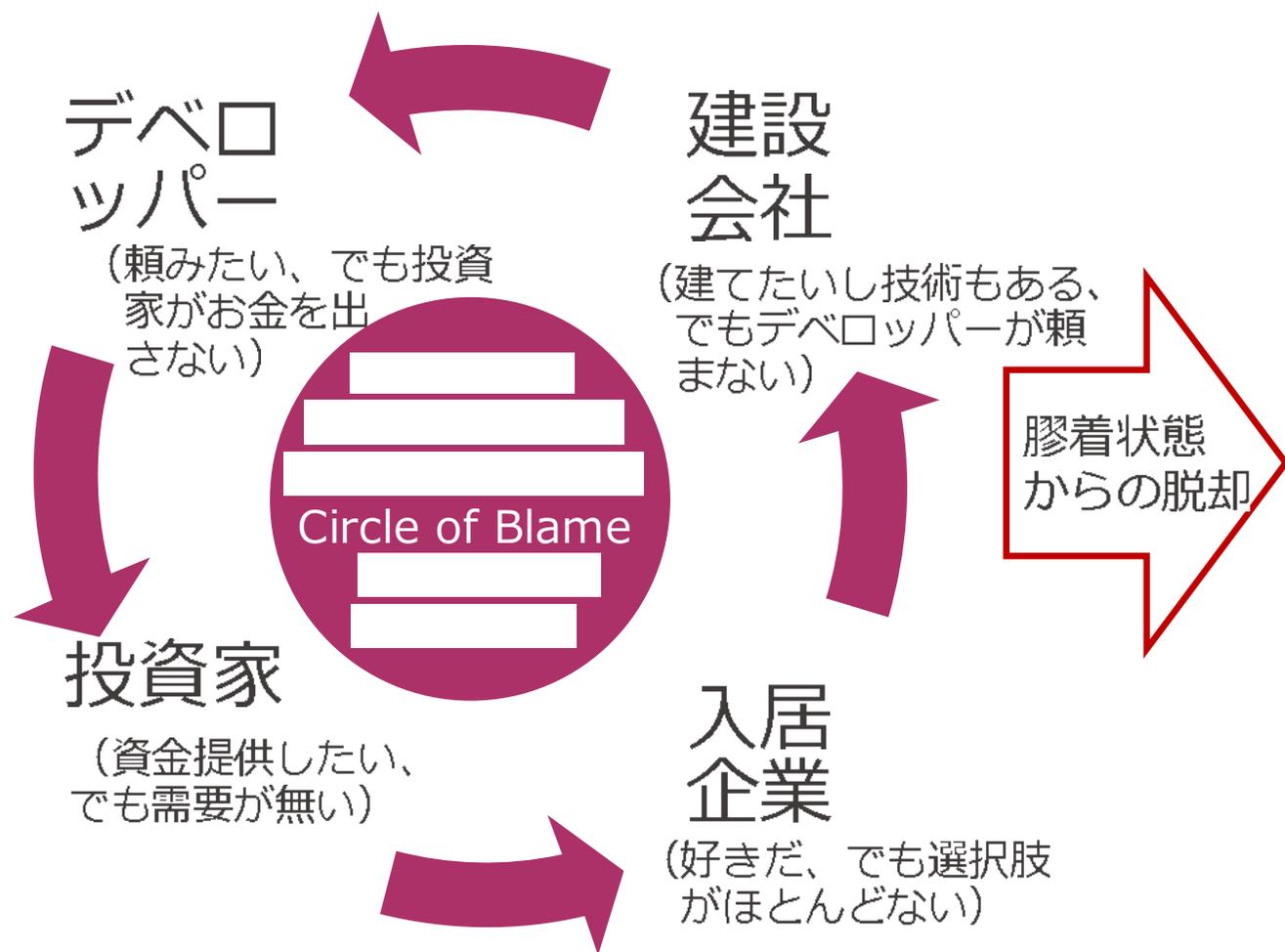
- 生物多様性の多様な価値を、政策・方針、規制、計画、開発プロセス、貧困撲滅戦略、戦略的環境アセスメント、環境インパクトアセスメント及び必要に応じ国民勘定に統合することを確保
- 事業者（ビジネス）が、特に大企業や金融機関等は確実に、生物多様性に係るリスク、生物多様性への依存や影響を評価・開示し、持続可能な消費のために必要な情報を提供するための措置を講じる
- 適切な情報により持続可能な消費の選択を可能とし、食料廃棄の半減、過剰消費の大幅な削減、廃棄物発生物の大幅削減等を通じて、グローバルフットプリントを削減
- バイオセーフティのための措置、バイオテクノロジーの取り扱いおよびその利益配分のための措置を確立
- 生物多様性に有害なインセンティブ（補助金等）の特定、及びその廃止又は改革を行い、少なくとも年間5,000億ドルを削減するとともに、生物多様性に有益なインセンティブを拡大
- あらゆる資金源から年間2,000億ドル動員、先進国から途上国への国際資金は2025年までに年間200億ドル、2030年までに年間300億ドルまで増加
- 能力構築及び開発並びに技術へのアクセス及び技術移転
- 最
- 定自
22. 女
- 確保
23. 女
- 対し

**11. 自然を活用した解決策（NbSなど）**

**12. 都市部における緑地・親水空間の面積、質、アクセス、便益の増加、及び生物多様性を配慮した都市計画の確保**

実施支援メカニズム及び実現条件 / 責任と透明性（レビューメカニズム） / 広報・教育・啓発・取り込み

Source: [https://www.biodic.go.jp/biodiversity/about/treaty/files/kmgbf\\_structure.pdf](https://www.biodic.go.jp/biodiversity/about/treaty/files/kmgbf_structure.pdf)



単なる「受注者」から「ソリューションの共創パートナー」へ

**提案力を高めプロジェクトに早期参画：**設計の初期段階からプロジェクトに関わり、コストと環境性能のバランスを開発者・投資家などと合意する。

**グリーン・ポテンシャルの可視化：**自然の多機能性を巧みに活かし、そのプロジェクトが創造する価値や効果（環境改善、Well-being向上、人材獲得、企業価値向上、情報開示への活用、リスク・機会対策など）を見える化し、事業主体やそのステークホルダーの意思決定を支援する。

## 取り組み事例

### 新柏クリニック



QOL



第4回

グリーンインフラ大賞

国土交通大臣賞等受賞



新柏クリニック  
SHINKASHIWA CLINIC



竹中工務店

千葉県柏市の中心市街地から南に一駅  
周辺には雑木林や畑も点在する郊外住宅地  
事業主は駅前の複数街区を所有



「最善の医療を、最良の環境で提供し、患者に貢献する」  
地域の里山の二次林を参照した緑地と建築を創出する





## 施設

既存診療所が老朽化・手狭となり更新が必要



## 敷地周辺

日中の人通りは少なく、閑散とした街路景観を呈していた

## 近接する事業主の所有地

他事業者への貸借期間が終わり、跡地の活用方針を策定する時期が来ていた





## 新柏クリニック（1期）

木造・木質架構で開放感のある**透析室**を持つ森林浴のできる診療所



## めぐりの庭（2期）

みどり豊かで患者それぞれの症状・体力に合わせた運動療法の実践ができる**リハビリガーデン**



## 糖尿病みらい（3期）

「待つ」から「過ごす」へ受診体験を変化させる**糖尿病専門治療センター**

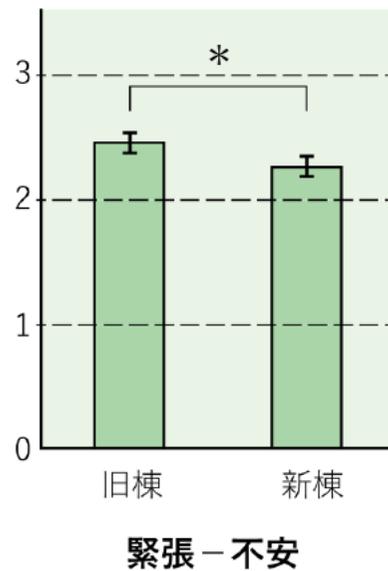
## ① 健康・Well-being、帰属意識への寄与

木造・木質の診察室や庭園のある診療所が、患者や地域住民に与える影響について、継続的な調査を実施し、抑うつや地域への帰属意識等について、有意な相関を明らかにした  
(日本透析医学会、日本建築学会等にて発表)

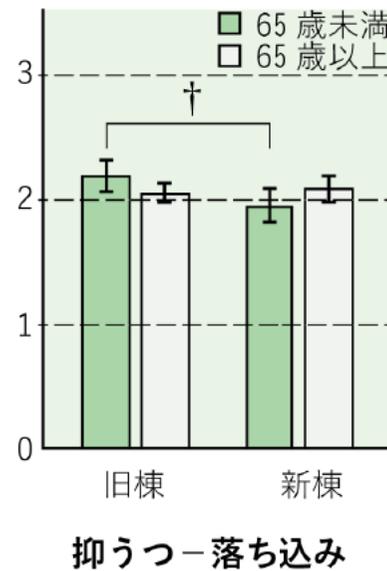


# ① 健康・Well-being、帰属意識への寄与

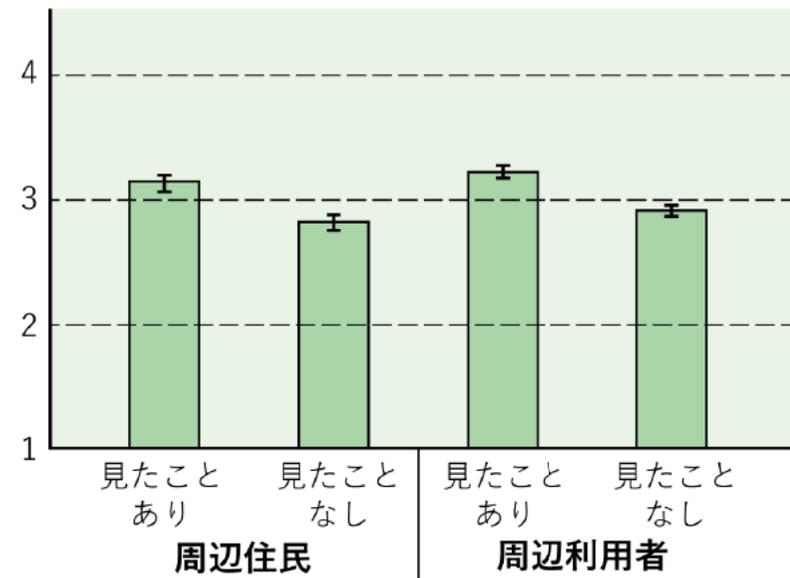
POMS 短縮版



\* :  $p < 0.05$  † :  $p < 0.10$



地域への帰属意識 (N=924)



クリニックの木質空間と窓から見える里山の風景が患者の陰性気分を低

糖尿病みらいを直接見たことがある人の方が地域への帰属意識が有意に高い

## ② まちへの寄与

ひとつの敷地から始まった取組みが、みどり豊かなまちづくりへと展開し、数多くの社会的評価も獲得

(グッドデザイン賞、IAUD国際デザイン賞、グリーンインフラ大賞国土交通大臣賞、優良緑地確保計画認定制度TSUNAGトリプルスター、SEGESそだてる緑、他多数)



**SEGES**

### ③ 環境への寄与

耐火集成材による独自の木造技術により、国産カラマツ210本分(145m<sup>3</sup>)の木材を使用することで**約100tのCO<sub>2</sub>を固定**



新柏クリニックの透析室



新柏クリニックの待合

#### ④ エンゲージメント及び場所への愛着と帰属意識の向上（3期）

緑地の運用や維持管理にスタッフ、近隣住民が竣工後も関わり場所への愛着と帰属意識が醸成されている。  
建替を契機に看護師・スタッフの増員が可能となった。



地元幼稚園の子どもたちへの開放



## ⑤ 医療経営への寄与（人材獲得）

建替えによる職場環境の向上により、医療・福祉業界の深刻な人材不足の中でも看護師・スタッフの増員を実現

（在籍看護師のうち、約1/4が建替え後の増員）

新聞広告等に要していた求人費用も不要となった



## ⑥ Well-being

木質架構と2期の庭が眼前に広がる解放感のある空間の患者の陰性気分を低下する効果が示唆された



## 緑地活用のイベントを実施（3）



診療所スタッフと家族が参加した3期竣工間際の「花植え会」



# 将来イメージ図



ご清聴ありがとうございました

想いをかたちに 未来へつなぐ

